

(二)下屋敷—下屋敷は初め本所に在つたが、利理の享保三年七月二日改めて之を北本所三千二百歩の地に受けた。武鑑に三・四之橋間と記すのは是である。本所の舊下屋敷四千八百坪はこの時上地となり、北本所は利理の安政二年十月二日夜の震災によつて全潰したが、その後再建せられて明治に及んだ。

ナヌカイチハンリヨウ 七日市藩領 加賀藩の支藩七日市の領邑は左の如くであつた。
(一)前田利孝—元和二年十二月廿六日徳川秀忠から、上野國甘樂郡一萬四千石に封ぜられた。

(二)前田利意—寛文四年四月五日徳川家綱から、上野國甘樂郡十八ヶ村一萬石領地の判物を受けた。後判物高に新開二千廿一石七斗二升を加へ、分村と共に廿五ヶ村を算した。

七日市 野上野上 岡本 曾木 君川 別保 黒岩上黒岩 藤木 大桑原大桑原 小桑原 相野田 白岩 後賀 坂口 藤相小屋 岩崎 奥平上奥平 高尾上高尾 中高尾

(三)前田利裕—明治二年六月廿三日版籍を奉還した。

ナハウチ 縄打 又單に繩ともいひ、既に檢地した區域をいふ。羽咋郡菅原社藏天正十年八月二十日前田利家の寄進狀に、『菅原繩打之内を以五拾俵云々。』又同年十月廿一日鹿島郡大田海門寺寄進狀に、『爲堪忍分佐美繩之内を以卅俵進之候。』などある。

ナハコ 繩海鼠 ↓ナマコ 生海鼠。
ナハシロ 苗しろ 一册。金澤の俳人爾辛亭甘谷著の春帖で、加越能俳人の句を集録したものである。その享和三年のものは孤庵馬佛の序。

文化元年のものは寧江道白狐の序。文化二年のものは萬壽館蘭阜の序。文化三年のものは鴻齋の序である。すべて京勝田喜右衛門の板。
ナハシロノジンジ 苗代の神事 鹿島郡上(部署名)の能登比古神社で、もと三月廿一日に行はれた。當村に檢地があつて、その事の終つた後に行はれた古例であるといふ。邑民はそれをいし祭と稱した。

ナハジロメイギコウ 苗代名義考 一册。天保七年五十嵐篤好著。苗代といふ名義の起、斗代・石盛等のことから、天正以降加賀藩の檢地、慶安以降の改作方に關することを書いてある。

ナハバリニン 繩張人 藩政の時、本檢地又は内檢地を行ふ時、分間繩入等のことに當るもので、御扶持人十村によつて選定せられ、改作奉行・定檢地奉行に申請し、定檢地所から任命した。一定の給銀なく、實務に當つた際日懸り銀を受けた。繩張人は田地割の算者となることもあつた。

ナハママタ 繩又 鳳至郡大屋庄に屬する部落。能登名跡志に、『此村九ヶ所へ別れ、家數九十軒ばかり。此村も山里に在つて、秋の末は長井・繩又として、泥道にて悪しき堂坂とてあり。坂のおりとに堂坂橋とて、長七間の橋あり。此邊よりは輪島の海上を見下し、春は櫻桃は紅葉、難所といへども眺にあかぬ所也。』とある。

ナハマタガハ 繩又川 鳳至郡にある。圓山領山から流出し、二俣領で鳳至谷川に落合ふ。水源から落合まで六軒許。

ナブネ 名舟 鳳至郡南志見郷に屬する部落。海上の七ヶ島は、この名舟の領である。舳倉島も中頃は同領であつたが、今は輪島に轉屬した。

ナベタニ 鍋谷 能美郡德橋郷に屬する部落。正保寛文・貞享の高辻帳に並びに鍋谷村と見える。

ナベタニイシ 鍋谷石 九谷磁器の原料たるもの。古鍋谷石は能美郡鍋谷小字ハコネダシから産し、石英粗面岩の霏爛によつて成生した粘土である。又新鍋谷石は、鍋谷小字源四郎畑から掘出し、分解した石英粗面岩で、岩脈をなして存する。

ナベタニガハ 鍋谷川 能美郡揚原山に源を發し、鍋谷を貫流し、寺島に於いて坪野から發する支流を併せ、和氣に於いて宮竹用水を合し、西流して千代に至り梯川に注ぐ。流程一四軒許。

ナベタニゴエ 鍋谷越 能美郡鍋谷から下野に至る峠。
ナベタニジヨウ 鍋谷城 能美郡鍋谷に在つたといふ。越登賀三州志故墟考に、鍋谷堡の遺蹟はないが、天正三年織田信長の賊堡を陥れたことが北陸七國志等に見え、出村に殿村の名も存するとある。

ナヘツカ 苗塚 河北郡千田にあつた。寶曆の調書に、この村領の内に苗塚と稱する九尺四方の塚があると記する。

ナベノツル 鍋の鉞 藩政中に、石川郡向増泉なる藤内頭仁藏・三右衛門の宅地の尻地から、大豆田組地の尻地にかけて、彎曲した芦原を鍋の鉞といひ、夏季螢の名所であつた。明治七年犀川の洪水によつて河原となり、後開墾して鍋の鉞の遺蹟を失うた。

ナベヤキチベエ 鍋屋吉兵衛 能美郡小松の人。父丈助に就いて陶畫を學び、松下堂文筆と號した。初め武田秀平に民山窯に聘せられて、出張指導してゐたが、遂に金澤に移つてその棟梁になり、嘉永中金澤小立野の辰巳屋某が、石川郡熊走村に開窯した時にも、吉兵衛はその陶畫を助けた。吉兵衛の子の内海吉造は、明治窯業界の重鎮になつた。

ナベヤジマチ 鍋屋地町 金澤の舊町名。後の吹屋町である。
ナベヤジヨウスケ 鍋屋丈助 父を丈右衛門といひ、製陶を業として、江沼郡大聖寺に住んでゐた。丈助は寛政頃から陶畫に従事し、松下堂黄影と號し、能美郡若杉窯の起つた時に赴き、後小松に移つて徒弟に教へた。

ナベヤマ 鍋山 ↓カブトヅカ 兜塚。
ナベヤリ 鍋屋利 金澤の商賈で詩を好み、修して鍋利とすることもある。享保前後の人。

ナホエ 直江 石川郡鞍馬庄に屬する部落。
ナホエノ 直江野 河北郡に屬する部落。明治申五ヶ庄の野を改名したものである。
ナホエリヨウシュウ 直江菱舟 初め藩儒大島桃年・永山平太等に就きて經學を修め、又長井葵園に書を學び、遂に町儒者たるの許可を得て家塾を開いた。維新の後小學教育に従事し、明治廿七年六月十四日歿。享年六十三。

ナホミ 直海 石川郡河内庄に屬し、口直海・中直海の兩部落に分かれてゐる。
ナホミ 直海 羽咋郡堀松庄に屬する部落。初は直海・大釜・高屋の三邑であつたが、高屋は元和六年、大釜は承應三年直海に併せられたといふ。

ナホミガハ 直海川 ↓ナホミダニガハ